

## 2. 長崎県沿岸でみられる主な植食性動物

## (1) 魚類

	アイゴ <i>Siganus fuscescens</i>	アイゴ科	
生態	藻場、岩礁・サンゴ礁域に分布。ときに大きい群れをつくる。産卵期は水温 25℃以上になる 7 月中旬頃～8 月の短期間。沈性粘着性卵。		
形態	全長 30～40 cm。体色は一般的に黄褐色で多数の不規則な暗色斑紋や白色点がある。尾鰭は湾入。頭長は胸鰭長の 1.3～1.5 倍。		
備考	長崎県ではバリ、ヤノバリ、ヤジロ、アイ等と呼ばれる。背鰭、臀鰭、腹鰭の棘に両側に沿って毒腺がある。		

	ノトイスズミ <i>Kyphosus bigibbus</i>	イスズミ科	
生態	浅い岩礁域に分布。幼魚は流れ藻につく。夏～秋は主に動物食、冬にハバノリを好んで食べるとされる。長崎県では大型褐藻類や養殖のヒジキ、ワカメへの食害が問題化。産卵期は 6～10 月。		
形態	全長 70 cm。生時、体の側面に多くのオリーブ色の細かい線がある（老成魚ではない）。通常、背鰭軟条数 12、臀鰭軟条数 11、第 1 鰓弓の鰓耙数 21～24 等で他種と区別。		
備考	長崎県では、シチクレ、ヒッツ等と呼ばれる。長崎県沿岸に分布するイスズミ属はイスズミ、テンジクイサキ、ミナミイスズミ、ノトイスズミの 4 種。		

	ブダイ <i>Calotomus japonicus</i>	ブダイ科	
生態	藻場や礫域に分布。単独または小さな群れをつくる。定着性が強く、夜に同じ場所に戻る。雌性先熟の性転換をする。夏場は甲殻類や石灰藻を食べるのでカニを餌に、冬場はハバノリ、ヒジキ等を餌に釣れるとされる。水温 15℃以下で摂餌しなくなる。産卵期は 5～9 月頃。		
形態	体長は 40 cm 前後。体色は雌で赤みが強く、雄で青みを帯びる。両顎歯の癒合は不完全で歯は覆瓦状に並ぶ。尾鰭は円形か截形。		
備考	長崎県では、オオガン等と呼ばれる。		

(1) 魚類

ニザダイ <i>Prionurus scalprum</i>		ニザダイ科
生態	岩礁・サンゴ礁域に分布。水深 10～30m で数十～数百の群れをつくる。石灰藻を好み、藻類の間隙等の小型甲殻類や多毛類と一緒に食べることがあるとされる。産卵期は春。分離浮性卵。	
形態	全長 40～50 cm。体色は茶褐色で腹面は淡い。尾柄から側中線に沿って 4～5 個の大きくて黒い骨質板があり、後ろ 3～4 個には小さな半円形の竜骨状突起がある。両顎にはおよそ 7 尖頭に分割された鋸上状の門歯状歯が 1 列に並ぶ。	
備考	長崎県では、サンノジ、ウシ等と呼ばれる。	

メジナ <i>Girella punctata</i>		メジナ科
生態	沿岸の岩礁域に分布。稚魚は流れ藻に付き、成長に伴い沿岸に接近して群れをつくる。雑食性で、海藻、動物プランクトン、多毛類、甲殻類など何でも食べるが、夏には動物を多く捕食し、冬はハバノリ等の海藻を好んで食べる。産卵期は春～初夏で長崎県では 3～5 月とされる。分離浮性卵。	
形態	全長 50cm 以上。体色は背側が黒青色、腹側で淡くなる。鱗の基部や中部に普通暗黒点があり、鰓蓋の後縁は黒くなく、側線有孔鱗数は 50～56 等で他種と区別される。	
備考	長崎県では、クロ、クロイオ、クレイオ等と呼ばれる。	

クロダイ <i>Acanthopagrus schlegelii</i>		タイ科
生態	内湾、汽水域、沿岸の岩礁域に分布。雌雄同体期の後、雌に分化。産卵期は春～初夏で、水温 15～16℃で開始。	
形態	体長 50 cm。生時、体は暗灰色で腹方は銀灰色。両顎前部に各 3 対の門歯条犬歯があり、上顎側部に 4～5 列、下顎側部に 3～4 列のよく発達した臼歯がある。	
備考	長崎県では、チヌ、チン等と呼ばれる。長崎県沿岸に分布するクロダイ属はクロダイの他にはキチヌの 1 種のみ。	

## (2) ウニ類

ムラサキウニ <i>Anthocidaris crassispina</i> ナガウニ科		
生態	潮間帯～水深 20m 以浅に多く、岩礁の窪みや割れ目、岩棚の下に分布する。バフンウニに比べ外洋性が強い。産卵期は春～夏。	
形態	殻径 7 cm、殻高 3 cm に達する。殻は強固で半球形（いが栗型）。体表、棘とも濃紫黒色。棘の表面は平滑で光沢がある。裸殻の色は灰色系の淡紫緑、周口部の膜域が顕著に狭い等で他種と区別。	
備考	長崎県ではクロウニと呼ばれる。	

タワシウニ <i>Echinostrephus molaris</i> ナガウニ科		
生態	潮間帯～潮下帯の外洋に面した岩礁に穴をあけて分布する。しばしば多数が群集して、“ウニのアパート”を形成する。	
形態	殻径 2～3 cm の小～中型種。殻は特異な盃形、棘は針状で細くて鋭く、紫色。サンゴ礁や岩に穴を掘って群生する。	
備考		

ナガウニの 1 種 <i>Echinometra</i> sp. ナガウニ科		
生態	南方系種で、外洋に面した岩礁やサンゴ礁に分布する。長崎県ではムラサキウニの生息帯にみられる。産卵期は夏の報告がある。	
形態	殻の輪郭は楕円形で長径 4～5 cm。棘の色彩は黄緑色、暗緑褐色、淡褐色、淡紅色など様々。	
備考	近年、長崎県の各地で分布が確認されている。最近の研究では 4～5 種に分類される可能性がある。	



## (2) ウニ類

バフンウニ <i>Hemicentrotus pulcherrimus</i> オオバフンウニ科		
生態	潮間帯～水深 20m 以浅の転石帯、岩礁帯に分布し、特に潮間帯～水深 5m までに多い。水温 12℃以下では摂餌量が減少する。産卵期は冬～春。	
形態	殻径 5 cm に達する。半球形（馬糞形）。棘は短小で密生する。裸殻は淡緑色。	
備考	長崎県ではガゼと呼ばれる。成熟した卵巣には強い苦味（アミノ酸の一種のプルケリミン）がある。	

## (3) 貝類

ウラウズガイ <i>Astraliium haematragum</i> サザエ科		
生態	潮間帯～水深 20m の岩礁域に分布。	
形態	殻高 3.5 cm、殻径 3.2 cm。殻は円錐形で、厚質堅固。周縁には 1 列の突起列が歯車状に張り出す。殻底は平面的で鱗片状彫刻を伴った螺肋をめぐらす。殻色は全面的に灰白色で、殻底（軸唇）と蓋の周縁部は紫色。蓋はソラマメ形。	
備考		

ギンタカハマ <i>Tectus pyramis</i> ニシキウズガイ科		
生態	潮間帯～水深 20m の岩礁域に分布。	
形態	殻高 8.5 cm、殻径 8 cm。大型円錐形。体層の周縁部は鋭く角張る。老成すると周縁の結節状突起がなくなり、周縁角はなめらかになる。殻底は白く細かい螺溝がある。螺層上面は褐色に暗緑色の雲状斑を散らす。	
備考	長崎県ではサンカクニナとも呼ばれる。可食部は比較的多く、食用にされる。貝殻はかつてボタン材料に利用されていた。	

資料集 2 (3)

(3) 貝類

コシダカガンガラ <i>Omphalius rusticus</i> ニシキウズガイ科		
生態	潮間帯～水深 20m の岩礁域に分布。	
形態	殻高・殻径とも 3 cm 弱。殻は厚く堅く、ややふくれた円錐形。色彩は灰白色が強い。螺層の上面には螺肋を欠き多数の斜肋が盛り上がる。殻底は平面的で平滑。臍孔（へそ）は深く丸く開き、その周辺は白く、緑色になることはない。	
備考		

オオコシダカガンガラ <i>Omphalius pfeifferi carpenteri</i> ニシキウズガイ科		
生態	潮間帯～水深 20m の岩礁域に分布。	
形態	殻高 6 cm、殻径 5 cm。円錐形で殻は堅固。螺層は黒・灰褐色・黒褐色で、多数の強い斜肋によって粗く刻まれる。殻底は強い螺肋と螺溝をめぐらし、平滑でない。	
備考	長崎県ではニナやミナと呼ばれ、市場にも出る。バテイラと類似。	

ヒメクボガイ <i>Omphalius nigerrimus</i> ニシキウズガイ科		
生態	潮間帯～水深 20m の岩礁域に分布。	
形態	殻高・殻径とも 2.5 cm。螺塔は高く、螺層は斜肋によって密に刻まれる。殻色は黒い。殻底は平らで螺肋を欠き、灰白色と黒のまだら模様になる。へそ部は白く、緑色を帯びることはない。	
備考	クボガイに類似。殻底はコシダカガンガラに類似。	

## 参考資料

- 1) 新日本動物圖鑑 (下) (岡田著) (1965) : 北隆館.
- 2) 魚類図鑑 南日本の沿岸魚 (益田ら編) (1975) : 東海大学出版会.
- 3) 標準原色図鑑全集 16 海岸動物 12 刷 (西村・鈴木著) (1979) : 保育社.
- 4) 水産無脊椎動物学 (椎野著) (1982) : 培風館.
- 5) 学研生物図鑑 貝 I 巻貝 2 版 (本間編) (1983) : 学習研究社.
- 6) 日本産魚類大図鑑 (益田ら編) (1984) : 東海大学出版会.
- 7) 新版魚類学 (下) (落合・田中著) (1986) : 恒星社厚生閣.
- 8) 山崎・清本(1993) : 長崎県平戸島産ムラサキウニの生殖周期, 西海区水産研究所研究報告, **71**, 33-40.
- 9) 原色検索日本海岸動物図鑑[II] (西村編著) (1995) : 保育社.
- 10) 決定版生物大図鑑 貝類 4 版 (奥谷監修) (1996) : 世界文化社.
- 11) 現代おさかな事典 漁場から食卓まで (山本編) (1997) : エヌ・ティー・エス.
- 12) 日本近海産貝類図鑑 (奥谷編著) (2000) : 東海大学出版会.
- 13) 桐山ら (2002) : II. 藻食性魚類の大型褐藻類に対する摂食の選択性 (藻場に対する食害実態調査), 長崎県総合水産試験場事業報告, **86-88**.
- 14) 桐山ら (2003) : II. 藻食性魚類の大型褐藻類に対する摂食の選択性 (藻場に対する食害実態調査), 長崎県総合水産試験場事業報告, **98-99**.
- 15) 桐山ら (2004) : II. 藻食性魚類の生態調査 (藻場に対する食害実態調査), 長崎県総合水産試験場事業報告, **98-99**.
- 16) 秋本ら (2008) : 宗像市大島におけるガンガゼ類の分布と駆除, 福岡県水産海洋技術センター研究報告, **18**, 77-83.
- 17) 磯焼け対策シリーズ① 海藻を食べる魚たち (藤田ら編) (2006) : 成山堂書店.
- 18) ウニ学 (本川編著) (2009) : 東海大学出版会.
- 19) Yamaguchi et al. (2011) Spawning season and size at sexual maturity of *Kyphosus bigibbus* (Kyphosidae) from Northwest Kyushu, Japan, *Ichthyol Res*, **58**, 283-287.
- 20) 野口・福元(2012) : ガンガゼ *Diadema setosum* の採卵と飼育, 佐賀県玄海水産振興センター研究報告, **5**, 43-45.
- 21) 日本産魚類検索第三版 (中坊編) (2013) : 東海大学出版会.

